

農林水産省 フードテック研究会（第6回） 議事要旨

日時：令和2年7月30日（木）13時30分～14時30分

場所：ウェブ会議

出席者：食品企業、ベンチャー企業、研究機関、関係省庁等から約180名が参加（農林水産省を含む）。

第6回では、中間とりまとめ（案）及び官民協議会の体制について、意見交換を行った。

意見交換で出された主な意見

○中間とりまとめ（案）について

- ・フードテックの産業化の入口が見える内容で、今後の方向性が分かりやすく示されているが、出口設定についても議論が必要。食が持つ機能を最大限に生かすためには、課題設定と実証試験が重要。
- ・全体として「食料供給自体の制約自体が現在より格段と多様で強くなってくる。すなわち「制約自体のニューノーマル化」（資源枯渇、環境汚染、温暖化等への対応）」である。それをもっと丁寧に書いた方が良いのではないか。

○官民協議会のあり方について

- ・新興技術に関する国内外の動向調査や規制に係る考え方の整理等がフードテック産業の振興には必要。このため、新興技術についてのギャップ調査やケーススタディを行うようなガバナンスWTを立ててはどうか。
- ・宇宙基本計画にも示されているとおり、今後は完全資源循環型の食料供給体制を構築することが重要。宇宙空間での食料供給体制を地球での生産に還元することが効果的だと思われるので、宇宙食料WTを立ててはどうか。
- ・投資・出口戦略についてのスタートアップ支援に関するWTも必要であり、国際競争力のある強いベンチャー育成に向けて、多面的に協議する場を設けるべきではないか。国際的な競争力のある技術の確保のための目標をしっかりと設定し、強み・弱みをしっかりと分析していくべき。
- ・ゲノム編集技術は社会受容性が課題であるとともに、規制面では遺伝子組み換え技術の制度がベースになっており、実態に合っていないと思われる点もある。このため、ゲノム編集WTを立てて、これらの課題に官民でアプローチしてはどうか。
- ・培養肉については、社会受容性や既存産業との連携可能性を検討するために、ステーキホルダーが参加するコミュニティが既にある。それとは別に新たな官民協議会WTを立てる必要があるのか疑問なので、既存のコミュニティを官民協議会WTに発展させることはどうか。

以上